



教会短信

2012年10月7日

No. 47

牧師 間瀬 善彦

「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる」
(イザヤ書 11 章 6～9 節)。

上記は旧約聖書、イザヤ書の中に書かれている言葉です。

今から 2700 年ほど前、イスラエルの国で活躍しました預言者イザヤの預言です。彼はこの預言において、「わたしの聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない」と平和な世界について語っています。そして、この預言は単に人間の世界の平和を語るだけでなく、地球上のあらゆる生き物の平和についても語っています。

わが国には戦争放棄を定めた平和憲法があります。この平和憲法は、世界に誇るべき日本の宝と言うべきものです。もし、日本がこの憲法を永続的に守り、自ら戦争を放棄し、平和を実現することができるならば、それは真に素晴らしいことです。日本は世界の人びとのためにも大きな貢献をすることになります。しかし、その一方で、この実現は真に困難であることも事実です。イザヤが語っている「何ものも害を加えず、滅ぼすこともない」平和な世界は、水が海を覆っているように、主（神）を知る知識が大地に満ちることがなければ、実現しないものであります。

主（神）を知る知識とは、神が愛の神であるということをわたしたちが知ることです。神はすべての人びとを愛し、あらゆる生き物を大切に思う心をお持ちです。1人1人の命、すべての生き物の命を神は大切にされます。このように神がすべての物を生かされ、大切にしている命を、どうしてわたしたちは害することができるのでしょうか。この神の愛をわたしたちが知ることによって、他の人びとや地球上のあらゆる生き物の存在をおろそかにすることができなくなるのです。

秋に思う

暑い夏がやっと終わりました。

暑い夏は、毎日毎日病気をしないようにと、気をつけて生活をする日々でした。

そして、やっと秋を迎えました。涼しくなると頭の回転も良くなって、いろいろなことを思います。

3年前に読んだ、羽仁もと子さんの本の中に書いてあった言葉を思い出します。

「わたしたちは、あれも欲しい、これも欲しいと両手一杯持てないぐらい握りしめ、その手の隙間から落ちたものだけが人への情けでしょうか」。

この言葉に出会ったとき、あれも欲しい、これも欲しいと思っていた若いときのわたしを思い出しました。そして、頭をガンと殴られたようでした。それからは、我が身は欲張らないようにしましょう。必要以上に欲しがることをやめよう。他者への情けの方を重視しよう、と強く学びました。

聖書に、「**憐れみ深い人は幸いです。その人は憐れみを受けるからです**」(マタイ5章7節)。

憐れみ深い人とはどういう人のことを言うのでしょうか、と考えました。

憐れむとは、人の悲惨な状態を見て、同じ立場に立って、その苦しみを取り除いてあげたいと行動するのではないかと思いました。聖書の言葉は、わたしの生きる力です。

先日、年配の牧師のお話を聞く機会がありました。とても心に残りました。

「わたしたちは障害を持った方や他国の恵まれない子どもたちを見て、ただ気の毒とか、可哀相とか思っているだけではいけない。その方たちを自分の横で見ているだけではなく、自分の真ん中に受け入れて、生活をしなくてはなりません」。

この言葉もとても印象的でした。

わたしのこれからの歩む道が示されようでした。

自分が必要としない余りもので、人に何かをするのではなく、自分が大切にしているものを用いて、人に憐れむことができようになりたいと思います。なぜなら、わたしが神様からたくさんの憐れみをうけたからです。

聖書の言葉で磨かれた人たち

沢田美喜

捨てられた子どもたちの母となって奔走 社会事業家 1901～1980年

第二次大戦後、占領軍兵士と日本人女性の間に生まれた子どもたちの多くが捨て子となりました。その子たちを育てる施設をつくったのが、沢田美喜というクリスチャン女性でした。

彼女は三菱財閥を興した岩崎本家に生まれ、外交官と結婚した、まさに名家の令嬢。しかし、第二次大戦終結後、実家の父は戦犯となり、自らは敗戦国の官僚の妻になります。

そんな戦後の混乱期、彼女が乗り合わせた列車の網棚で、持ち主不明の風呂敷包みが発見されます。中には黒い肌の嬰兒の死体が入っていました。近くにいた沢田が疑われましたが、どうにか嫌疑は晴れます。このとき彼女は「こうした子どもの母になろう」と施設設立を決意したのです。

しかし財閥解体で実家の援助は当てにできず、莫大な借金をして大磯の元岩崎家別荘を購入。混血孤児のへの中傷を浴びながら、彼女は農家に行き、コートと引き替えに食料を調達するなど奔走しました。試練や困難が多く、神様から力を得るため朝夕の祈りは欠かさなかったといいます。

その後、活動が正しく理解されると多くの支援が寄せられ、日本初となる首相顕彰も授与されました。この施設で育った子どもは二千人以上。現在も、育児放棄や虐待などで保護された子どもたちの施設として、彼女の遺志が引き継がれています。 (『聖書の品格』いのちのことば社より引用)

★特別伝道集会のご案内 10月14日(日) 午前10:30—12:00

- ・聖書の内容を分かりやすくお話していただきます。
- ・どなたでもいらしてください。

★教会バザー 11月25日(日) 午後12:30—14:30

- ・今年も色々準備しております。おいしいケーキなど召し上がりにおいでください。お待ちしております。

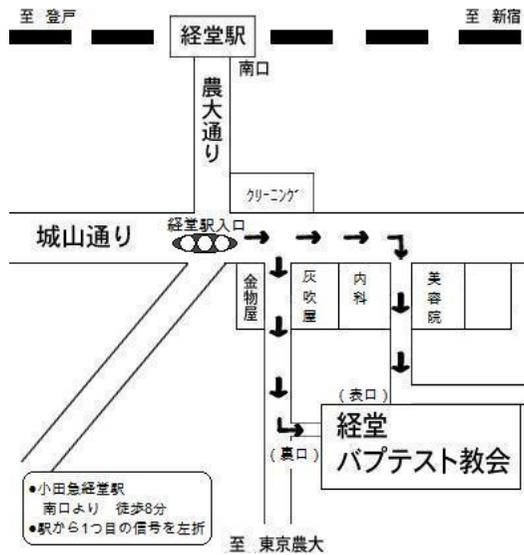


★困ったことや悩み事がある方は、いつでも教会へ相談にいらしてください。

『教会短信』への質問でもかまいません。事前にお電話いただければ幸いです。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。